

## 天文民俗調査報告(2022年)

北 尾 浩 一 \*

### 概 要

2021年に続いて、星名伝承の調査に取り組んだ。コロナ禍により延期になっていた宮古島、多良間島の調査を実施した。また、フランス人言語学者シャルル・アグノエルが1930年(昭和5年)に沖縄県糸満市で記録したアガリミチブシ、ロシア人言語学者ニコライ・ネフスキーが1922年(大正11年)、1926年(大正15年)、1928年(昭和3年)の3回に渡り宮古群島で記録した星名が、現在においてどのように伝承されているかについて調査を実施した。日々の暮らしのなかで形成された多様で豊かな南西諸島の星名伝承について報告する。

### 1. はじめに

1978年、新潟県佐渡郡相川町姫津(現 佐渡市)より星名伝承の調査をはじめてから45年目になった。調査を実施した地域は、「沖縄県」「北海道」である。

### 2. 調査の概要

#### 2-1. 調査方法

漁業、農業等、昔の仕事に従事した経験を持つ高齢者、経験がなくても年上から伝え聞いていた高齢者を中心にインタビュー調査を行なった。最も高齢の伝承者は昭和3年生まれ、最も若い伝承者は昭和35年生まれであった。

#### 2-2. 調査地

2022年は、次の11箇所で調査を実施した。

- ・4月…北海道様似郡様似町、幌泉郡えりも町、積丹郡積丹町入舸町、岩内郡岩内町、沖縄県島尻郡八重瀬町港川、与那原町板良敷
- ・6月…沖縄県糸満市糸満、北海道積丹郡積丹町幌武意町
- ・10月…沖縄県宮古島市平良大浦、宮古郡多良間村塩川、仲筋

### 3. 各地域の星名伝承

#### 3-1. 北海道岩内郡岩内町島野

##### (1) 星名

オリオン座三つ星…ミツボシ、北斗七星…ナナツボシ

##### (2) 伝承

- ・ミツボシ、ナナツボシ、じいさまが言っていた。
  - ・ローソクもらい、七夕、行なった。学校終わってから親がこどもをつれて。食べ物をもらって。
- (話者生年:昭和26年、岩内町島野出身)

#### 3-2. 沖縄県宮古島市平良大浦

##### (1) 星名

プレアデス星団…ンミブス、シリウス…ウプラブス

##### (2) 伝承

- ・「ンミブスと方言で言って、これが6つかな、6つ7つやたべや」
  - ・「あさしゃーかはやく、ウプラブスで、きれいに大きくあがりよったけど」
- (話者生年:昭和3年、大浦出身)

ウプラブスについては、当初ウブラウサギと同様に明けの明星と考えていたが、2023年4月に友利健氏と追調査を行ない、次の2点からシリウスと確定した。

- ① ウプラブス、旧暦9月朝。大きい。
- ② ウプラブスは一つの星。毎年見える。

#### 3-3. 沖縄県宮古郡多良間村塩川

##### (1) 星名

---

\*星の伝承研究室  
starlore\_kitao@yahoo.co.jp

プレアデス星団…ム°ニブス(ム°は半濁音)  
 オリオン座三つ星…タタキィ°  
 北斗七星…シャッシブス、ナナツブス  
 北極星…ニヌパブス、宵の明星…ユィ°フーブス  
 明けの明星…シェーカブス、流星…ナガリブス

## (2) 伝承

話者と次のように確認しながら記録した。方言の表記は友利健氏による。

W: 話者 K: 北尾

K「フスでこう1, 2, 3と3つ並んだようなフスありましたか？」

W「オリオン座ですか」

K「はい、それは多良間の方言で？」

W「タタキィ°」

K「どういう意味ですか」

W「叩くことですね」

K「3つの星がなぜ叩くなのでしょうね？」

W「それはわからない」

W「先輩が、多良間のことばではそれはタタキィ°というんだよと」

K「タタキィ°というのですか。タタキィ°プスまでいうのですか」

W「タタキィ°プスはなかったですね。タタキィ°プスとは聞いたことなかったですね。タタキィ°だけ」

タタキィ°以外について次のように記録した。

- ・すばるね、ム°ニブスと。ム°ニブス、群れる。すばるのことが、ム°ニブス。ム°ニブス、移動するんですよね。
- ・柄杓をしゃっし。クバの葉で。北斗七星のことは、シャッシブスとかナナツブスとか言ったです。ナナツブスがこうして柄杓に似ているということでシャッシブス。
- ・シェーカブス、朝早く見える星。明けの明星。朝、太陽出る前に出ますから。
- ・西の空にちょうど夕飯時間に出るのですよ。星の名前がユィ°フーブス。夕飯を食べる時間に見える星です。
- ・子どもの頃、夏休み、朝早く草刈りに行くのですよ。電気も何もない時代ですから、はっきりシェーカブス見えたのですよ。ここがひろっぱですから。そのフスがまた夕飯時間、日が暮れたら出るのですよ。夕飯時間でユィ°フーブス。
- ・天の川は、ティンヌム°ジュ。溝ね。

(話者生年: 昭和16年、多良間村塩川出身)

## 3-4. 沖縄県宮古郡多良間村仲筋

### (1) 星名

プレアデス星団…ム°ミブス、北斗七星…ナナツブス  
 北極星…ニヌパブス、宵の明星…ユィ°フーブス  
 明けの明星…シェーカブス、流星…ナガレブス  
 彗星…ホーキブス

## (2) 伝承

W1、W2: 話者 K: 北尾

K「ごじゃごじゃとかたまった星は？」

W1「あれはム°ミブスと言って。群れをム°ミといいますから」「東のほう」「動くみたい」

K「いくつくらいかたまっています？」

W1「ななつぶすですけど」

W2「ム°ミブス、ななつ」

W1「ちいさい星のかたまりみたい」

ム°ミブス以外について次のように記録した。

・船乗りなんかはこの星を見て、こちらにニヌパブスあるからどの方向だと運転してるみたい。こちらにニヌパブスあるからこちらの方角だ。行くべきところ目的地はですよ。(W1)

・夕方の星は大きな星が、この辺に出ますけどね、夕飯の時期に出る星でユィ°フーブスと言っておりますけど。ユィ°フーブスは西のほう。(W1)

・夕飯食べる時間の星。光っている間に夕飯たべてという。(W2)

(話者生年: W1昭和5年、W2昭和10年、多良間村仲筋出身)

## 4. 特筆すべき星名伝承

### 4-1. ネフスキーが記録した星名

ネフスキーは、1922年(大正11年)、1926年(大正15年)、1928年(昭和3年)の3回に渡り宮古島を調査し、数多くの星名を記録した。ニコライ・A. ネフスキー著、平良市教育委員会編『宮古方言ノート上』(平良市教育委員会, 2005)には、次のような星名が掲載されている。各星名の()内は記録地である。なお、カタカナは筆者(北尾)が追記したものである。

- ・ビキラブス bikir'a-busi 男子星ノ意。牽牛星。 biki-r'a: 男子 p113(宮古島平良、伊良部島佐良浜)
- ・ブナラブス bunar'a-busi 女子星ノ意。織女星。 bunar'a: 女子 p125(宮古島平良、伊良部島佐良浜)
- ・フニブス funi-busi 船星ノ意。北斗星。 p184 (宮古島平良、上地)
- ・ユス°フォーブス ju:zfo:busi 宵の明星 (宮古島平良) [沖縄本島、jwbamman 'a:] p314
- ・ナガズウブス naga 3 u: busi 彗星 p.568. (宮古島平良)
- ・ニヌパブス ni:nupa-busi 「子ノ方星」ノ意。北極星。 p617 (宮古島平良、伊良部島佐和田、伊良部島長浜)

『宮古方言ノート下』には次のような星名が記されている。

- ・ポーキ°ブス po:k'i-busi 「箒星」ノ意。彗星。 p93 (宮古島平良)

- ・プスガマ *pusi-gama* 小星 p115 (宮古島平良、伊良部島長浜)
- ・シャーカアガラー *sa:ka-agar'a:* 暁の明星 p135 (宮古島平良)
- ・ウシムマピキブス *usi-mma-p'ik'i-busi* 「牛馬引星」ノ意。牽牛星。p376 (宮古島上地)
- ・ウフニブス *uhu:nibusi* 北斗 *uhu:ni:* 大船 p430 (伊良部島佐良浜)
- ・ウプラウサギ *upura-usagi* 明けの明星 *upura:* 大浦。平良村ノ大字。p481 (宮古島平良)

約100年前にネフスキーが記録した星名が現在においてどのように伝承されているか、次に記す。「北尾C」は北尾による現地調査。「北尾AC」は、北尾によるアンケート調査による記録。

#### (1) ブナラブス

『南琉球宮古語多良間方言辞典』に次のように記されており、多良間島においても使用されている。

「ぶなり° ぶす[buna[busu]] [名] [ぶなり° ぶすまい...] 織女星。織姫星。」(渡久山他 2020)

#### (2) フニブス(北斗)

- ・宮古郡上野村字宮國(現 宮古島市)

フニブス: 漁船や航海中、船員たちが見当にすると云うことから船星と伝えられている。(1983 年記録、話者名: 平良恵勇氏、当時 69 歳) (北尾 AC)

- ・平良市松原(現 宮古島市)

フニブス: 舟星(1984 年記録、話者: 松原の老人クラブ) (北尾 AC)

- ・宮古郡城辺町保良(現 宮古島市)

フニブス(1984 年記録、話者名: 下地金吉氏、当時 71 歳) (北尾 AC)

#### (3) ユス° フォーブス(宵の明星)

- ・宮古郡上野村字宮國(現 宮古島市)

ユス° ファウブス(1983 年記録、話者名: 平良恵勇氏、当時 69 歳) (北尾 AC)

- ・平良市松原(現 宮古島市)

ユス° フオブス: ユス° は夕はんの意。フオは食べるの意。夕飯を食べる星。(1984 年記録、話者: 松原の老人クラブ) (北尾 AC)

#### (4) ナガズウブス

ネフスキーは彗星と記録したが、流星を意味した。

- ・宮古郡上野村字宮國(現 宮古島市)

ナガズウブス: 長く尾をひいて流れていく。流れ星が出たら有名人が近いうち死ぬと云われている。(1983 年記録、話者名: 平良恵勇氏、当時 69 歳) (北尾 AC)

#### (5) ニヌパブス(北極星)

- ・宮古郡上野村字宮國(現 宮古島市)

ニヌパブス: 子方ブス(1983 年記録、話者名: 平良恵勇氏、当時 69 歳) (北尾 AC)

- ・平良市松原(現 宮古島市)

ニヌパブス: ニヌパ、子の方(方角) (1984 年記録、話者: 松原の老人クラブ) (北尾 AC)

- ・宮古郡城辺町保良(現 宮古島市)

ニヌハブス(1984 年記録、話者名: 下地金吉氏、当時 71 歳) (北尾 AC)

- ・宮古島市荷川取

ニヌパブス: この辺の人、ブス。ニヌパブスめあて船はしらす。父親が石炭を石垣から伊良部までは船で運んだ。そのとき、ニヌパブスめあて。(2019 年 8 月記録、話者生年: 昭和 11 年) (北尾 C)

- ・宮古島市松原

ニヌハブス(2019 年 11 月記録、話者生年: 昭和 5 年) (北尾 C)

#### (6) シャーカアガラー(明けの明星)

- ・宮古郡上野村字宮國(現 宮古島市)

シャーカアガリヤ(1983 年記録、話者名: 平良恵勇氏、当時 69 歳) (北尾 AC)

#### (7) ウシムマピキブス(牽牛)

- ・宮古郡上野村字宮國(現 宮古島市)

ウシウマピキブス: 陰暦7月7日七夕の夜、天の川をへだてている織女星と牽牛星が年に一度川を渡って会うという伝え話がある。(1983 年記録、話者名: 平良恵勇氏、当時 69 歳) (北尾 AC)

- ・平良市松原(現 宮古島市)

ウスウマサダティブス: 牛と馬を連れている星。「サダティ」とは、「連れる」の意。(1984 年記録、話者: 松原の老人クラブ) (北尾 AC)

#### (8) ウプラウサギ

- ・平良市松原(現 宮古島市)

ウプラウサギ(1984 年記録、話者: 松原の老人クラブ) (北尾 AC)

現地調査で次のように記録した。

「ウプラウサギ、ゆーあき(夜明け)や。池間島いけばよくわかるのとちがうか。夜明け3時か4時に出る」

「ウプラウサギ、東側にアガス°に出る。東のほうに夜明けに見える。相当、光る星。アガス°に出る」

(2019 年記録、話者生年: 昭和5年、宮古島市松原出身) (北尾 C)

### 4-2. 糸満のアガリミチブシ

フランス人言語学者シャルル・アグノエルは、昭和 5 年(1930 年)に沖縄県糸満市を訪れ、次のようにアガリミチブシという星名を記録した。

「ten no kami(天の神)[dieux du ciel]= agari-mitsibusi(hoshi)

東ノ三星[les trois étoiles de l'Eest]」  
(Patck Beillevaire 2010)

アガリは、「上がる」という意味ではなく、「東」という意味である。アガリミチブシはオリオン座の三つ星(オリオン座  $\delta$ 、 $\epsilon$ 、 $\zeta$ )を意味する。

アガリミチブシは、糸満の漁師が使用している星名ではない。筆者(北尾)はミチブシ、ミチブシを記録した。アガリミチブシと「アガリ」をつけないかと確認すると「つけない」という答えが返ってきた。

金城誠氏は、ミーチブシ、クガニミチブシ、タテープシを記録している。金城誠氏は、「夏の漁の時、この星の出現や高さから夜が明けるまでの時間を判断している。また、この星はま東から出て、ま西に沈むので洋上の方位を知るあて星としても使える。そのためか、この星を『重んじられている星だからクガニミチブシとよぶ』の話も今回得た」(金城誠 1986)と記している。

漁師にとって生活に必要な星であるが、アガリミチブシの名前が用いられることはなかった。

現在はノロが不在になり行なわれていないが、旧暦5月1日の朔日拝み(チータチウガミ)において次のようにアガリミチブシという名前が用いられていた。

「アガリミチブシ ニーヌファ ウマヌファ ヌ グエーサチ ダヤビル」(東り三星 子の端 午の端 の お声がけで あります)

「ミティン サンティン ルーグシン トゥヌ グエーサチ ダヤビル」(御天 山巔 竜宮神 との ごあいさつ で あります)

「アガリミチブシ ニーヌファ ンマヌファ ヌ グエーサチ ダヤビル」(東三つ星 子の端 午の端 の ごあいさつ であります)(金城善氏による祈りの記録)(大里字誌編集委員会 2009)

1429 年、他魯毎(たるみい)は、中山(ちゅうざん)の尚巴志王(しょう はしおう)の攻撃を受けて、南山王国は滅ぼされた。

山巔毛には、南山王国最後の王、他魯毎(たるみい)の墓がある。そして、その墓のある山巔毛から見ると、南山城跡の方からのぼるのがアガリミチブシ(オリオン座三つ星)である。これは間違いない事実である。

山巔毛から南側は埋め立てられてしまっているが、かつては海であった。海に向けそびえ、南山城跡からアガリミチブシをのぼる景観のなかでアガリミチブシへの祈りが続いていた。

金城善氏は、「筆者は、南山王統の三代の王たちが空に昇っていくのを拝んでいるのではないかと考えるが、アグノエル博士は『東ノ三星』は天の神であると、糸満ノロから聴いている」と記している。(金城善 2014)

アガリミチブシは、 $\delta$  星、 $\epsilon$  星、 $\zeta$  星の順で縦になって出る。最初にのぼる  $\delta$  星は初代の王、その次の  $\epsilon$  星は二代、 $\zeta$  は三代…と、三人の南山王を想像したのであろうか。

それでは、山巔毛から、アガリミチブシ(オリオン座三つ星)はどのように見えるのだろうか。友利健氏によると、山巔毛と南山城跡を結ぶ線を入れた地形図を作成したところ距離は約 2 キロ東から南の方に約 8 度にあたる。ちょうどオリオン座  $\zeta$  星が高度約 11 度になったとき、山巔毛から南山城跡の方角に輝く。(1900 年、糸満市の場合)

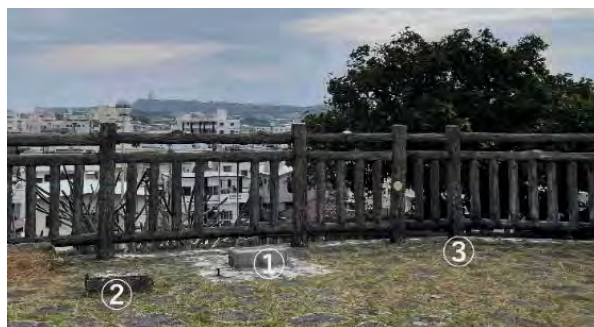
しかしながら、アガリミチブシへの祈りが行なわれる旧暦5月4日(ユッカヌヒー)にオリオン座三つ星がのぼる様子を見ることができない。太陽の横の方にあるのを拝んだ可能性がある。神役の玉城氏はアガリミチブシでなくミウミサマに祈りを捧げていたが、星ではなくウティン(太陽)であった。下図は、「1429 年 6 月 5 日 午前 6 時 35 分」のものであるが、確かにその太陽の右のほうにはオリオン三つ星が存在する。



写真①は卯の端の香炉、②はアガリミチブシの香炉、③は元沖縄タイムス社カメラマンの大城弘明氏が撮影された 1986 年 6 月 10 日のハーレーの取材の写真に写っていたアガリミチブシへの 12 本の 3 組の沖縄線香が供えられていた位置である。

アガリミチブシ即ちオリオン座三つ星は東より少し南よりのぼることからアガリミチブシの香炉は①卯の端の香炉よりも南即ち③付近に設置されるべきである。しかしながら、卯の端の香炉①の北側にアガリミチブシの香炉②が設置された。(写真下)

そこで、神役は本来ならアガリミチブシの祈る場所③に近い①卯の端の香炉をアガリミチブシの香炉と判断して最初に祈りを捧げていた。②(アガリミチブシの香炉)は卯の端の香炉と判断して最後に祈った。



#### 4-3. 多良間島のニーリ

『宮古島旧記並史歌集解』には、秋の四辺形、プレアデス、ヒアデス星団とアルデバランでつくるV字形、オ

リオン三つ星〜と順にのぼるのを見て蘇って与那覇勢頭(よなはせど)豊見親(とゆみゃ)になって宮古を治めることになったというニーリ(神歌)が掲載されている(稲村 1962)。稲村賢敷氏は、このニーリは、初めは宮古島においても広く歌われていたようであるが、今は多良間島に栗摺りうたとして残っているだけで、平良や下地々方には其の四二節以下だけが僅かに歌はれているに過ぎないと記している。次の星が順にのぼるのが唄われているのは四七節〜であり、宮古島平良、下地地方で僅かに唄われていた個所に含まれる。

「寅の方ゆ見いりば  
あがるなゆ、見いりば、  
(寅の方則ち東を見ているとの意)  
ゆしやすみやーや、  
きんたてい、うりが  
あとからや、」

稲村賢敷氏は、「『ゆしやすみゃ』はペガス星座(ママ)のこと、『ゆしやす』は島語で屋敷のこと、ペガス星座(ママ)の四つ星を指す、『きんたて』は四隅の柱を立てゝ家建てすること、即ちペガス星座の四ツ星を見て、その後からはの意」と記している。厳密に言えば、ペガス座  $\beta$   $\alpha$   $\gamma$  アンドロメダ座  $\alpha$  でつくる秋の四辺形を意味する。

多良間島に伝わる星見様の大ヨサシ星が秋の四辺形である。(高城他 1980a)(高城他 1980b)

波照間島の「ひーすくり・じらば」に唄われている「ユツァシキ」も秋の四辺形であり、家建てという共通点がみられる。

「ひーすくり・じらば  
その一 ゆつあしキ・じらば  
原歌 訳  
ゆつあしキでそー 四辺形星を  
やーなうーばし 元にして  
やーばちくーり 家を造った  
あんちよー そうな  
ウリヤミョーナチャ 囃子  
(それは 冥加なことよ)」  
(竹富町古謡編集委員会 2000)

多良間のニーリ「ユシヤス」、星見様「大ヨサシ」、波照間「ユツァシキ」は同じグループの星名ではなからうか。

多良間のニーリは続く。  
「んみ星(ぶす) ばあがらし  
うりがあとからや」

稲村氏は、「『んみ星』はスバル星群(むれ)のこと、『んみ』は群れ(むれ)の意、『八んみ』『十んみ』は八の群、十の群の意」と記している。2022年10月多良間島にて「ム°ミブス」を記録しており、「ンミブス」は現在

においても記録できるプレアデス星団(昴)を意味する星名である。秋の四辺形のペガス座  $\gamma$  の出からプレアデス星団(おうし座  $\eta$ )の出まで約 3 時間 13 分(1900 年、宮古島の場合)である。その時間の経過ののちにのぼる「んみ星」をニーリでは「うりがあとからや」と唄っている。

続いて、プレアデス星団につづいてのぼる星について唄われている。

「むい星(ぶす) ばあがらし  
うりがあとからや」

稲村氏は、「『むい星』は馭者座星群のこと、『むい』は箕(み)のことで馭者座星群の形が箕に似ているから言うのである」と記している。しかしながら、ぎょしゃ座全体で箕に見立てるのは難しく、仮にカペラと  $\epsilon$ 、 $\eta$  で作る三角形としても、プレアデス星団の出との間隔が短すぎる。ところが、アルデバランとヒアデス星団でつくるV字形の場合、箕に見立てた箕星が伝承されている。(北尾 2018) また、星見様にも箕(ムイ)星が掲載されており、アルデバランとヒアデス星団でつくるV字形を意味する。(高城他 1980a)(高城他 1980b) プレアデス星団(おうし座  $\eta$ )の出からアルデバランの出まで約1時間8分を「うりがあとからや」と唄ったと考える。

むい星に続いてのぼる星を次のように唄った。  
「たーきゆみや上らし  
うりがあとからや」

「たーきゆみや」について、稲村氏は、「『たゝきゆみや』星は不明」と記している。唄では「たーきゆみや」、解説では「たゝきゆみや」となっているが、何れにしてもタテイブシ(久米島)、タテーチ、タテイチ(粟国島)、タタスイブスイ(波照間島)と同じグループでオリオン座三つ星を意味する可能性を考えていた。アルデバランの出とオリオン座三つ星の出は約 1 時間 40 分の間隔で、「うりがあとからや」の表現にぴったりであると考えた。しかし、宮古群島においての伝承事例に出会えなかった。

ところが、2021 年多良間島塩川にて前述のようにタタキ°を記録することができた。さらに、次のような文献での記述があることを知った。

・多良間出身の渡久山春英氏が宮古毎日新聞 2017 年 4 月 27 日に、「オリオン座の三ツ星は『タタキ°』」  
・『南琉球宮古語多良間方言辞典』の記述

たたキ°[tatakɪ][名][たた<sup>1</sup>キ°まい...。たたキ°まい...]オリオン座の三つ星。(「<sup>1</sup>」は、アクセントのピッチの下降を意味する)(渡久山他 2020)

秋の四辺形(ペガス座  $\gamma$ )がのぼってからプレアデス星団、アルデバランとヒアデス星団でつくるV字形、最後にオリオン座三つ星までの約 6 時間の星の出を唄ったと考える。秋の四辺形からオリオン座三つ星ま

でを図にすると下記のようなになる



そして、最後に出る星はウブラクーラである。

「うぷらくーら、あ  
がらし、うりがあ  
とからや」

稲村氏は、『『うぷらくーら』又『うぷらうさぎ』は明けの明星のこと、語彙は不明 最後に来る者、しんがりする者にも『うぷらうさぎ』という」と記しており、明けの明星と解釈していた。

ところが、友利健氏との Facebook の Messenger で  
の議論がきっかけとなった。

友利「うぷらくーら」は明けの明星ではない気がしてきました」

北尾「シリウスの可能性？」

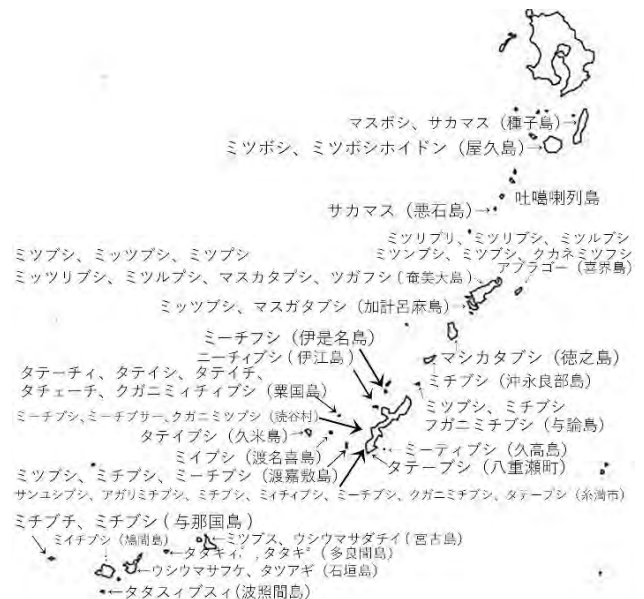
友利「そうです。『星見様』に「大うら星・小うら星」がありますが、あれを「おおうらぼし」と読んじゃいけないんですね」

イカ釣りの役星においても、プレアデス星団、アルデバランとヒアデスでつくるV字形、オリオン座三つ星、シリウスという順に東の空からのぼる星を目標にしていた。シリウスならオリオン座三つ星の後に確実にのぼるが、明けの明星は確実ではない。宵の明星になっているときは見ることができない。たまたま木星が明けの明星の代わりに輝いていればよいが、そのような確率は決して高くない。また、時季によってはオリオン座三つ星より前にのぼることもあるだろう。その点、シリウスはオリオン座三つ星の約 1 時間 33 分後に確実にのぼる。また、続いて約 12 分後にプロキオンがのぼる。友利健氏との議論をきっかけにウブラクーラはウブラ＝シリウスとクーラ＝プロキオンを意味すると考えるにいたった。(友利他 2023)

なお、ウブラは大浦、クーラは小浦という地名であり、ウブラクーラと対比して呼ばれていた。地名にもとづいた星名であるウブラクーラは明けの明星の星名として記録できるウブラウサギとは全く別である。

#### 4-4. 南西諸島のオリオンの星名

2022 年に多良間村にて記録したタタキ<sup>1)</sup>、糸満市山嶺毛にて祈りが続いていたアガリミチブシを加えて南西諸島の星名分布図(オリオン)を作成した。(下図)



南西諸島のオリオンの星名は、大きく二つに分けることができる。(下図参照)

三つ星      三つ星と小三つ星とη星



南西諸島のオリオンの星名を次に記す。北尾による現地調査は「北尾 C」、アンケート調査は「北尾 AC」と記した。北尾以外の調査、文献にもとづくものはその旨を明記した。

(1) 種子島・屋久島、吐噶喇列島

◆「オリオン座三つ星」…屋久島

・星の数3にもとづく星名

ミツボシ…鹿児島県熊毛郡屋久島町栗生(北尾 C)

ミツボシホイドン…鹿児島県熊毛郡屋久島町永田(北

尾 C)

◆「オリオン座三つ星と小三つ星とη星」…種子島、吐噶喇列島

・榊

マス…鹿児島県西之表市西之表(北尾 AC)

・酒榊

サカマス…鹿児島県西之表市住吉浜之町(北尾 C)、鹿児島郡十島村悪石島(下野 1966)

(2) 奄美群島

◆「オリオン座三つ星」…奄美大島、加計呂麻島、喜界島、沖永良部島、与論島

・星の数3にもとづく星名

ミツブシ…大島郡大和村思勝(北尾 AC)、宇検村平田、屋鈍(北尾 C)、喜界町花良治(北尾 C)、大島郡与論町(三上晃朗氏による)

ミツブシ…大島郡宇検村(野尻 1973)

ミツブシ…奄美市佐用町市(北尾 C)、大島郡宇検村平田(北尾 C)、瀬戸内町諸鈍(加計呂麻島)(北尾 C)

ミツツブシ…大島郡宇検村屋鈍(北尾 C)

ミチブシ…大島郡和泊町永嶺(北尾 AC)、与論町(北尾 C)

ミツルブシ…大島郡大和村今里(北尾 C)、喜界町小野津、坂嶺、塩道(北尾 C)

ミツルブシ…大島郡宇検村(野尻 1973)

ミツリブシ…大島郡喜界町小野津(北尾 C)

ミツリブリ…大島郡喜界町小野津(岩倉 1941)

ミツツレブシ…大島郡瀬戸内町西古見(北尾 C)

・星の数+黄金

星の数に黄金(クカネ、フガニ)を加えた星名である。

クカネミツフシ…大島郡喜界町手津久津(北尾 C)

フガニミチブシ…大島郡与論町(北尾 C)

◆「オリオン座三つ星と小三つ星とη星」…奄美大島、加計呂麻島、喜界島、徳之島

奄美大島、喜界島以南は、酒榊は記録されていない。酒とは特定していない「榊形星」が奄美大島等に、油を量る「油合(アブラゴー)」が喜界島に伝えられている。

・榊の形

マスカタフシ…奄美市笠利町喜瀬(北尾 C)

マスカタブシ…大島郡宇検村(野尻 1973)

マスガタブシ…大島郡瀬戸内町芝(加計呂麻島)(北尾 C)

マシカタブシ…大島郡徳之島町徳和瀬(松山光秀氏による)

・油合

アブラゴ…大島郡喜界町手久津久(北尾 C)

アブラゴー…大島郡喜界町荒木(北尾 C)

・大島紬の小さな榊の柄ツガ

ツガフシ…奄美市笠利町笠利(北尾 C)

◆ミツルブシを唄った俚謡

鹿児島県大島郡大和村今里でミツルブシの歌を記録した。(話者生年 大正6年)

「ヨーナカミツルブシ、ミチャルチューヤーオラヌヨ。ワレハーカナーシノーデー、イキニミーチャルヤー」

カナは彼女、「ミツルブシ」は、オリオン座三つ星のこと。夜中まで人は起きていないから、見ている人はいない。彼女に会いにいくと、そのとき、ミツルブシが輝いていたと唄う。

(3) 沖縄本島

◆「オリオン座三つ星」…糸満市、読谷村、八重瀬町

・星の数3にもとづく星名

ミチブシ…糸満市糸満(北尾 C)

ミチブシ…糸満市糸満(北尾 C)

ミチブシ…糸満市糸満(金城誠 1986)、中頭郡読谷村座喜味(北尾 AC)

ミチブサー…中頭郡読谷村座喜味(北尾 AC)

・星の数+黄金

クガニミチブシ…糸満市糸満(金城誠 1986)

クガニミツブシ…中頭郡読谷村都屋(北尾 AC)

・星の数+東(アガリ)

アガリミチブシ…糸満市大里(大里字誌編集委員会 2009)

・星の数3+不明

星の数3にもとづくが「ユシ」の意味が不明

サンユシブシ…糸満市喜屋武(北尾 C)

・真東から縦にのぼることにもとづく星名

タテーブシ…糸満市糸満(金城誠 1986)

タテーブシ…島尻郡八重瀬町(北尾 C)

(4) 沖縄本島周辺島嶼部

◆「オリオン座三つ星」…伊是名島、伊江島、久米島、栗国島、渡嘉敷島、渡名喜島、久高島

・星の数3にもとづく星名

ミツブシ…島尻郡渡嘉敷村(北尾 C)

ミチブシ…島尻郡渡嘉敷村(北尾 C)

ミチブシ…島尻郡渡嘉敷村(北尾 C)

ミチブシ…島尻郡伊是名村(北尾 AC)

ミチブシ…国頭郡伊江村(北尾 AC)

ミイブシ…島尻郡渡名喜村(北尾 AC)

ミイブシ…南城市知念久高(北尾 C)

・星の数+黄金

クガニミチブシ…島尻郡栗国村アギ(北尾 C)

・真東から縦にのぼることにもとづく星名

タテイシ…島尻郡栗国村浜(北尾 C)

タテイシ…島尻郡栗国村浜・アギ(北尾 C)

タテーチ…島尻郡栗国村アギ(北尾 C)

タテイブシ…島尻郡久米島町(北尾 C)

## (5) 宮古群島

### ◆「オリオン座三つ星」…宮古島、多良間島

・星の数3にもとづく星名

ミツブス…平良市松原(現 宮古島市)

・「叩く」にもとづく星名

タタキ<sup>°</sup>…宮古郡多良間村塩川(北尾、友利による記録)

タタキ<sup>°</sup>…宮古郡多良間村(渡久山春英氏による)

・牛馬人に見立てた星名

ウシウマサダチイ…宮古島市城辺保良(北尾 C)(この場合は牽牛でなくオリオン三つ星。オリオン座  $\delta$  を牛、 $\epsilon$  を人間、 $\zeta$  を馬に見立てた)

## (6) 八重山群島

### ◆「オリオン座三つ星」…石垣島、波照間島、鳩間島、与那国島

・星の数3にもとづく星名

ミチブシ…八重山郡竹富町鳩間島(北尾 AC)

ミチブチ…八重山郡与那国町祖納(北尾 C)

ミチブシ…八重山郡与那国町祖納(北尾 C)

・牛馬人に見立てた星名

ウシウマサフケ…石垣市白保(石垣繁氏による)(上から牛、人、馬と思う)

・真東から立ち上がるようにのぼることにもとづく星名

タツアギ…石垣市登野城(正木譲氏による)

タツアギブシ ピローマヌ パイカジ(2月の中旬過ぎには、宵に入るとタツアギブシが昼間となる。その時期には暖かい南風が吹いてくる)(正木 2020)

・真東から縦にのぼることにもとづく星名

タタスイブスイ…八重山郡竹富町波照間島(新城勝氏による)

「タタスネぬアミ」 タタスイブスイの頃の雨。タタスイブスイが出て来るとまとまった雨が降る。田起こしがいつさいにはじまった。

タタシ…八重山郡竹富町波照間島(島村修氏による)  
「タタシネヌフツナガアンマギ」(ナガ:には、アンマギ: 栗を撒く。「タタシネの雨で栗を撒け」という意味)

## 5. おわりに

北海道の調査にあたっては、福澄孝博氏、沖縄本島、宮古群島等の調査にあたっては、友利健氏、福里美奈子氏に数々のアドバイスをいただくことができた。糸満市山嶺毛のアガリミチブシへの祈りの調査については金城善氏、宮古島の調査については宮川耕次氏、多良間島の調査については教育委員会の桃原薫氏に多大なるご協力をいただいた。

また、1979年～2022年までの調査にもとづいて南西諸島のオリオン座の星名についてまとめた。石垣島については、石垣繁氏、正木譲氏、波照間島について

は島村修氏、新城勝氏、与那国島の調査については、田原伊明氏、上地艶子氏、久高島等については福里美奈子氏の貴重なアドバイスをいただいた。2019年の宮古島、与那国島等の調査に同行いただいた宮地竹史氏、2020年の波照間島等の調査に同行いただいた通事安夫氏、2020年の渡嘉敷島の調査に同行いただいた河合準子氏、山内銘宮子氏、与論島の調査に同行いただいた澤田幸輝氏、2022年の多良間島の調査に同行いただいた友利健氏、そして、星名伝承を語ってくださった話者のひとりひとりに感謝の意を表します。

## 参考文献

- ニコライ・A. ネフスキー: 2005、宮古方言ノート上、沖縄県平良市教育委員会
- ニコライ・A. ネフスキー: 2005、宮古方言ノート下、沖縄県平良市教育委員会
- 渡久山春英、セリック・ケナン: 2020、南琉球宮古語多良間方言辞典、国立国語研究所、p.250, p.437。
- Patick Beillevaire: 2010, OKINAWA1930 NOTES EHENOGRAPHIQUES DE GHARLES HAGUENAUER, p.69。
- 金城誠: 1986、星の方言名ー糸満市糸満ー、やちむん第9号、やちむん会、p.47-53。
- 大里字誌編集委員会: 2009、大里字誌、糸満市大里公民館、p681-687。
- 金城善: 2014、フランス人東洋学者シャルル・アグノエルが訪ねた昭和五年の糸満町、沖縄民俗研究第33号、沖縄民俗学会、p45-47。
- 稲村賢敷: 1962、宮古島旧記並史歌集解 琉球文教図書、p.393-401。
- 竹富町古謡編集委員会: 2000、ひーすくり・じらば、竹富町古謡集 第三集、竹富町教育委員会、p.306。
- 高城隆、星加弘文: 1980a、『星見様』の研究(上)、沖縄文化 53、沖縄文化協会、p41-52。
- 高城隆、星加弘文: 1980b、『星見様』の研究(下)、沖縄文化 54、沖縄文化協会、p71-93。
- 北尾浩一: 2018、日本の星名事典、原書房、p.92。
- 友利健、北尾浩一: 2023、多良間島のニースに登場するウブラクーラについて(鹿児島年会での研究発表の補遺)、天界 1176号、東亜天文学会、p168-171。
- 下野敏見: 1966、吐噶喇列島民俗誌第一巻(悪石島、平島篇)、p.109。
- 野尻抱影: 1973、日本星名辞典、東京堂出版、p184-185。
- 岩倉市郎: 1941、喜界島方言集、中央公論社、p251。
- 正木譲: 2020、島の歳時記、南山舎、p39。